



1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190400364		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・川越たかしな		
所在地	埼玉県川越市砂新田3-6-1		
自己評価作成日	令和5年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和5年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々に寄り添い、各々のペースで生活出来るように支援を行っています。毎日、体操等の運動を取り入れ体力の維持に努めています。簡単な調理に参加して頂いたり、季節に合わせ手作り昼食会を行い、皆様とても喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東武東上線の新河岸駅から徒歩14分、住宅街の中にある2階建、2ユニットのグループホームである。入居者は笑顔で落ち着いた雰囲気の中で生活をしている。ALSOK介護の健康増進コンテンツ「あんしんヨガ」や「ノーアエクササイズ」など、リモートを活用した体操等を取り入れて、日々の健康増進に力を入れており、コロナ禍により外出機会が減っても健康が維持できるようにしている。入居者の希望のメニューでの昼食会や手づくりおやつ等、食を楽しむ機会を設けている。壁には笑顔の写真や季節の飾り物等が飾られ、職員は明るく声かけをして、一人ひとりに寄り添う支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、共有できるようにしている。	理念は玄関に掲示している。会議等では最後に理念を確認し、共有出来るようにしている。新入職員には研修時に説明し、理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ノアエクササイズ、オレンジカフェに地域の方に参加して頂いていたが、現在はコロナ対策の為、自粛している。園芸が趣味の近所の方が季節に合った花を寄付してくださり、玄関に飾っている。	自治会に入っている。オレンジカフェを再開したが、施設内でコロナが発生したため、自粛している。散歩の折など、近隣住民と挨拶や会話をしたり、花をいただくなど、交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に行った際に挨拶をしたり、ご近所の方よりお声掛けして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見、ご要望を聞かさせて頂くために手紙を出している。	対面での運営推進会議を予定し、家族宛に事前案内をしたが参加者がなく、電話や面会時に個別で意見や要望等を聞く形になった。議事録は家族や関係機関に送付した。	対面での開催を再開したが、参加者が集まらないとのことなので、事前準備の工夫が求められる。家族等と直接意見交換ができる機会として開催される事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括主催の地域連絡会に参加している。	地域包括支援センター主催の地域連絡会はリモート開催で、なるべく参加している。地域包括支援センターとは入居相談等、電話やメール等でも連絡をとり合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1回、研修を年2回開催している。	身体拘束適正化検討委員会を年4回、イーラーニングを見ての研修を年2回行っており、拘束をしない介護について職員の意識を高めている。研修は全職員が学べるようにし、理解を深め、拘束しない介護に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を年3回、研修を年2回開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明を行っている。又、料金改定があった際には、都度書面を送付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話やメールでご意見やご要望を伺っている。	現在は面会制限はないので、面会も増えてきており、家族の意見や要望は面会時に聞くようにしている。要望等は職員間で情報共有し、必要な時は速やかに対応している。個々にあてたコメント付の「たかしな通信」を配布している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催している。又、日頃より提案や意見を言いやすい環境作りを努めている。	月1回の職員会議で職員の意見を聞くようにしており、多くの意見、提案が出されている。年2回、個別面談を実施し、話を聞いている。改善できる所は反映させており、働きやすい環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行っている。資格取得支援や研修への参加を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部での研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の自社の事業所とヘルプ等を通し、情報を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時の情報や入居後の様子、訴えをもとに個々に合わせた支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時や、ご入居時等に要望やご意見を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にあったサービスが出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で食事を摂ったり、家事活動を一緒にしたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があった際にはご連絡をしたり、外出や通院の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前から通われていた病院や美容院へ続けていけるように支援している。	入居時にアセスメントを丁寧に行い、可能な限り入居前の生活が継続できるようにしている。本人の希望により、家族との手紙や電話の取次ぎ、外出等の支援を行っている。コロナ感染が発生したため、当面外出等は自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、お茶の時間、おやつ時間は皆様ホールに出て頂いている。レクリエーションや体操を通じ交流や会話ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があれば適宜対応していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以前の生活環境や習慣を大切に、出来る限り意向に沿った生活が出来るように努めている。	会話のできる入居者が多く、日常の会話の中から希望や意向を聞くようにしている。入居前の暮らし方や習慣を家族から聞き、継続できるよう支援している。会話が困難な方は、日々の様子から本人の希望をくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時、ご本人様やご家族様よりお話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を記入し、申し送り職員間で共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活状況を把握。歯科や医療連携看護師からの意見を取り入れ、良いサービスが提供出来るようにしている。	全体的な見直しは年1回行っている。職員や医療関係者からの情報と家族の意見や要望を参考にして会議で話し合い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にプランの番号を記入し、実践状況を把握出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診対応等、柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校に花見や散歩に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、内科医、歯科医の訪問診療を受けて頂いている。変化があった際には医師、ご家族様と連携を取っている。	月2回の内科医と歯科医の訪問診療があり、月4回、歯科衛生士と訪問看護師が来ている。本人希望で外部受診する場合は家族対応が基本である。必要時は医師と連携が取れる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師が月4回訪問している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適宜、相談を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りも行っている。	入居時に重度化について説明し、希望のある方には看取り介護を行っている。状態変化の都度、医師や家族と相談しながら支援している。職員は看取りを自然に受けとめて対応しており、必要時に研修を行っている。今年度も2名の看取り対応を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。	年2回、入居者参加の避難訓練を行っており、内1回は消防署立ち合いで実施している。訓練の開催を外部の掲示板にのせ案内している。また、近隣に声をかけ、自治会の方に参加をいただいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣や排泄の際には扉を閉めるようにしている。排泄の声掛けも他の入居者様には聞こえないようにしている。	プライバシーの確保や人格の尊重について、職員会議で議題に挙げて話し合いをしている。更衣や排泄介助の際は、言葉かけに気をつけている。不適切な言葉かけ等があった場合には、その都度個別に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不安や不満の訴え等、否定せずにじっくりお話を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理せずご自身のペースで生活できるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を選んだり、髪を整えて差し上げている。ご希望時にはパーマをかけたり、ヘアカラー、メイクのお手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や姿勢等に注意しながら美味しく食事が出来るように支援している。米研ぎ、味噌汁の作成に参加して頂くこともある。	入居者の希望のメニューで昼食会をしたり、行事や誕生日会には手づくりおやつを作ったりして、食事が楽しいものになるよう、工夫している。皿拭きやテーブル拭き等、できる方には職員と一緒に行っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し適宜調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。夜間は義歯を預かり清潔に保てるようにしている。歯科医師、衛生士と連携しケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け、介助が必要な方は適宜行っている。出来るだけ失敗が少なくなるように、間隔等配慮している。	殆どの入居者がトイレでの排泄が可能であり、おむつ使用者はいない。排泄パターンを把握し、定時や随時の声かけを行い、夜間もトイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をお勧めしたり、ヨーグルト等の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や頻度を確認しながら、安全に入浴して頂いている。	入浴は週2回を基本とし、時間を固定せず、可能な限り個々の希望時間帯に入っていたい。季節を感じられるよう、ゆず湯やしょうぶ湯等を実施し、楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や掛物、明るさの調整を行っている。様子を見ながら適宜休んで頂けるよう、お声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個別に管理し確認を行っている。薬剤師とも連携が取れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好み等に合ったものを、適時提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物、外気浴をして気分転換をして頂いている。	春には近くの学校へ桜を見に行く事ができ、入居者も喜んでた。近隣への散歩や駐車場にテーブルを出して外気浴をするなど、気分転換をしていただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	消耗品の買い物支援を行っていたが、現在は中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時、電話をかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で安全な空間で生活して頂けるよう努めている。季節を感じて頂けるようなレイアウトを作成している。	共用部は開口部が広く明るく清潔な空間となっている。壁には季節の折り紙や行事での笑顔の写真が多く飾られている。入居者の多くが共用部でソファに座りながら、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファでおしゃべりをされたり、仲の良い方の居室でお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、ソファ、抱き枕など使い慣れた家具をお持ちになられている。	ベッドとチェスト、収納棚が備え付けてある。入居時には使い慣れた物を持参していただいているが、最近は多くの物を持ち込まずシンプルな居室にしている方が多い。清掃は職員が行っているが、可能な方にはやっていただいている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下等、共有部分に物を置かず、安全に移動出来るようにしている。		

(別紙4(2))



事業所名 グループホームみんなの家

作成日: 令和 6 年 2 月 1 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	対面の運営推進会議を再開したが、参加者が集まらなかった。	参加者が増えるようにする。	イベントと同時に開催するなどの工夫をする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。